

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200141		
法人名	社会福祉法人 柚子の会		
事業所名	グループホーム リブ花見川		
所在地	千葉県花見川区花見川3-29-201		
自己評価作成日	令和6年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和6年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員と入居者との関係ではなく、相手の望む関係作りを心掛け、安らぎの中に居心地の良い空間を作り、一緒に買い物や散歩に出掛けて地域の方と触れ合い、一日楽しかったと思って頂けるような支援をします。施設は花見川団地の中心の商店街に隣接しており、京成八千代台駅より路線バスが約13分で随時運行し、ご家族の方が訪問に便利です。建物内は広々とした廊下を中心に居室、食堂、談話室があり、フロアでは天候に影響されず適度な運動が可能で、家庭的で暖かみのある落ち着いた雰囲気の中、皆さんゆったりと過ごされています。また、低料金のため生活保護の方も入居可能です。なお、看取りも行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念である「QOLを基盤とした尊厳と自立の確立」を全職員は会議や申し送りで常に共有し実践している。具体的には、利用者の状態に応じて食事を工夫し、トイレの使い方を指導するなど個々のニーズに応じた支援を行っている。食事は、うどんやそばなど利用者のリクエスト食が多く、毎日食材を購入して、朝食は夜勤者、昼食と夕食は日勤者でその日の担当者が食事内容を決めている。また、利用者個々に適した食事形態(キザミ食、極キザミ食、ミキサー食など)の提供を行っており、食事を楽しむよう支援をしている。利用者からの寿司やウナギが食べたいなどの要望に対しては、行事食や誕生日会などの時に対応し、個々のニーズに応じたサービスを提供している。低料金で入居可能なこともあり、利用者の半数以上が生活保護者である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ても、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見ても、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や申し送りにて常に共有している	法人の理念である「QOLを基盤とした尊厳と自立の確立」を全職員は会議や申し送りで常に共有し実践している。具体的には、利用者の状態に応じて食事を工夫し、トイレの使い方を指導するなど、個々のニーズに対応した支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出を控えていたが、徐々にお花見や散歩や外食等を行っており、地域とのつながりを持っている。	事業所は地域の一員として日常的に交流を図り、団地のイベントにも積極的に参加し、祭りで100円均一で売っているものを見たり買ったりしている。また、利用者とスーパーと一緒に買い物に行ったり、桜並木の散歩などを通じて、利用者が地域と繋がりが続けられるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流に努めているが、実際、認知症がどこまで理解されているかはわからない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が行っている。職員は周知している	運営推進会議は年4回開催され、あんしんケアセンター、民生委員、地域住民等が出席している。会議では、ホームの活動報告や避難訓練、シャワーストレッチャー購入報告等が行われ、参加者からは、生活保護者の支払い遅延問題や避難訓練について質問があった。会議録は職員に回覧され、意見や質問が反映される仕組みになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が市担当者と利用者の件で報告や相談をしている	区役所との連携を強化し、生活保護者の使用料滞納問題(生保者の30%)を解決するため、管理者が役所と相談を行っている。あんしんケアセンターとも密に連絡を取り、空室状況を確認しながら、生活保護者の入居に関する問い合わせに対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていないが状況によってはご家族の理解の下、可能性は否めない	現在、身体拘束は行っておらず、家族の理解を得て対応している。例として、車椅子から転落し骨折した利用者について話し合い、固定することを理解してもらった。身体拘束廃止委員会では転倒リスクのある方に注意を促し、座ることを推奨する。研修内容はオンラインで提供され、全員が理解できるよう指導されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修の受講を職員に徹底しており、家族、職員に対しての環境やメンタルケアにも気を付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が無く、制度を知っている職員も少ない。今後は制度を理解した上で支援して行きたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、管理者が十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議を開催している。会議で出た意見や要望を運営に反映させている	運営に関して、利用者や家族からの意見や要望を積極的に反映している。例えば、料金滞納や体調の変化、歌の会への参加希望、病院への送迎、外食に希望などが挙げられる。利用者から寿司が食べたい等の要望に対しては、行事食や誕生日会の時に対応し、個々のニーズに応じたサービスを提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議で話し合い、反映、改善している	運営に関する職員の意見は、ユニット会議で話し合い、反映し改善している。例えば、食事がとれない利用者への対応や失禁する利用者の増加に伴うパーシートの購入要望が有る。個別には、外国人職員の日本語理解や意見の食い違いに関する悩みが相談されるなど、職員の声を大切にし、運営改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従事者それぞれが向上心を持ち、意見、行動ができる様な環境に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修や資格取得の機会を積極的に設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はほとんど無い。今後、勉強会も含めて行っていきたいと思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の状態を把握して本人が安心して生活できるような情報集め支援に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いの中でご家族の思い、不安を聞き、信頼関係を築ける様、支援に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と接し家族との話し合いの中で困っている事や、要望などを何が必要か見極めて、把握しサービスに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に合わせ、できる事は一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子、状態を定期的に写真や手紙に書き送付したり、電話にて伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、外部との交流は難しいが、思い出話をしたり、傾聴等で利用者との交流を大切にしている	友人と食事に行く、お寺の集会に参加、散歩で花見や家族と外食に行けるような支援をしている。また、話の合間に出てくるキーワードをきっかけに思い出話を傾聴し、スポーツ好きな利用者には大谷選手やオリンピックの話を通じて過去の思い出を共有することで、心のつながりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの認知度、状態を見極め、互いに助け合ったり話が出来る様に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用後の家族が気軽に相談できるような環境作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を家族からお聞きし、出来るだけ希望に沿った生活が過ごせるように支援している	入居後も入居前の活動を継続させてあげたいと家族の希望もあり、家族が歌の会への送迎を行い、お寺の集会にはお寺関係者が送迎を担当して家族・本人の希望を叶えるようにしている。野球好きの利用者にはテレビ観戦中に選手の経歴を話すことで、本人が生き生きとする姿が見られる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、または家族より生活環境を聞き、それに近い生活が出来る様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体、精神状況を一日過ごした内容を記録に残し全職員が把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	安心した生活が送れるようにご本人、ご家族、関係者を含め話し合いを持ち、計画作成をしている	家族の希望を受け、本人に洗濯物や新聞を畳むなどの手伝いをさせ極力体を動かしてもらおうようなケアプランを作成。また、トイレトペーパーの使用頻度が高い利用者には、夜間に簡易トイレを利用するプランを追加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートに記入し、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望によりその時々ニーズに対応出来る様臨機応変に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、地域との交流は徐々にだが出ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昨年12月から主治医が決まり、統一の医療が行われている	家族の要望に応じて整形外科に通院している者が1名おり、近隣の内科医に通っている者が1名いる。残りの入居者は全員月2回の訪問医を受診している。訪問看護師が週1回訪問して健康チェックを行い、異常があれば主治医に連絡する体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週一で入り、日常の情報共有に努め緊急時の対応も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時は、医師等に状態を聞き、医師、家族とのカンファレンスに必ず出席し、協力し合える環境づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になってきた時点で医師、家族、職員を交え今後の保身、希望、施設で提供可能なこと、またできない事を明確にし家族の希望に沿えるよう努めている	今年度の看取り実績は1件であり、重度化対応については入居時に看取り契約を交わし、状況の変化に応じて再契約を行う。利用者が重度化すると日中の睡眠時間が増え、食事が減少する傾向があり、主治医と家族の話し合いが行われる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、利用者、職員ともに避難訓練時に行い備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、避難経路の確認や利用者が避難出来る様、全職員に指導している。	今年度春先に台所からの出火を前提とした自主訓練が行われ、利用者も参加し、出火場所から遠いユニットへの避難が行われた。避難訓練前には職員間で避難場所の確認が行われている。近隣小学校での団地主催の消防訓練にもホーム職員が見学に参加した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者を敬う気持ちを忘れず、プライドを傷つけないよう、言葉掛けに配慮し対応している	排泄の失敗があった場合、その人に寄り添い恥ずかしさを和らげる支援を行っている。例えば、パンツを汚した場合にはカーテンを閉めて優しく声をかける。利用者には自主性を尊重し、選択肢を与えることで相手への尊重を示している。プライバシーの確保では、居室に入る際にはノックの励行、カーテンを閉めてのトイレ対応を行うよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話の中で希望、要望を伺い自己決定できるように促す		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、常に臨機応変に対応出来る様努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔、整容に気を付け個人の趣味などに対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症の流行より、買い物には一緒に出掛けることはできないが職員が毎回手作りで料理を提供している。食後は一緒に片付けを行っている	利用者個々に適した食事形態(きざみ食、極きざみ食、ミキサー食など)の提供を行っている。食事メニューは当番の職員が決め、利用者からのリクエストにも柔軟に対応可能である。重度化が進んだ利用者が多く、衛生面からも以前のような食事の手伝いは行っていない。誕生日や季節の行事に合わせた特別食も取り入れ、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量をチェックし、利用者の状態を把握し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯、口腔内の清潔を保つように個人に合わせてケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員全員で把握し個人の能力にあった支援を行う。自立支援をしている	利用者の能力に応じたトイレ支援を行い、職員が手を引いて誘導するなどの対応をしている。自立を促すために、可能な範囲でのトイレ利用を支援し、必要な部分を補助する。通常、排泄間隔は3日を目安にし、医師の指導で薬を使用することもある。普段から体操や牛乳の摂取などの工夫を取り入れて排泄のスムーズさを確保している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄記録を下に食事のバランス水分量など個々の便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本として、体調や希望に合わせて入浴している。年々重度化して来る利用者に対しても、気持ち良く入浴して頂ける様に新たな入浴設備(シャワーストレッチャー)を導入し実践している	利用者の個別の希望に合わせた入浴対応を心掛けている。現在、寝たきりの利用者4人に対してシャワーストレッチャーを使用し、寝たままでの入浴が可能となり、利用者から好評を得ている。従来はシャワーチェアへの移動が大変で職員の負担も大きかったが、新たな器具の導入により負担が軽減され、利用者と職員双方にとって有効である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体の状態に合わせ横になる時間を設けるなどして、安心して気持ちよく過ごしてもらおう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の効能知り、変化があった時は主治医に報告・連絡をし、指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭きや洗濯物を畳むなど、無理をしない範囲で、出来る方に行ってもらっている。また気分転換に他棟へ散歩に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行により、散歩程度の外出を行っている	暑い日が続き、散歩が難しいため、利用者は玄関から外に出て外気に触れる程度にとどまっている。以前は午前中の涼しい時間帯に散歩をしていたが、現状では家族が連れ出して外出や外食をする場合もある。当面の検討項目として、散歩を前提とした外気に触れる支援を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理を行い、本人や家族の希望に応じて使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症のため、本人からは難しいので職員が電話や手紙で状況を報告している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れて、季節の飾りつけや花や草木を飾り明るい空間にて過ごしてもらっている	利用者と一緒に折り紙を折り、廊下に貼って本人の作品として話すことで満足感を与えている。以前は広い廊下でボーリングや運動会を開催していたが、現在は行われていない。廊下の途中にソファを設置し、休憩に利用できるようにしている。リビングでの座席も人間関係に配慮してケースによって座席替えを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全面に考慮し、椅子やテーブルを配置して気分により場所を変えて過ごせる様に対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の居心地良い部屋作りをして頂きたく今まで使用されていた品をお持ちいただいている	居心地の良い居室環境を提供するため、利用者はアルバムや手紙、ベッドなど馴染みの物を持ち込むことが可能であり、人によっては仏壇も持ち込まれることもある。居室間の行き来は少なく、リビングでの談笑が主である。利用者が自分の部屋を間違えないよう、入口に色分けした暖簾を掛ける工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の動線を確保し、安全に過ごせるよう配置している。また、目印になるようにラベルなどを使い自立した生活が出来る様工夫している		